

外注先の選定を担う業務部門担当者さま向け

あなたの会社は派遣？それとも委託？

知っておきたい外注先選択のポイント



■ サマリー

人材派遣は人材を確保すること、業務委託は業務を依頼して納品してもらうという、全く別の目的があります。また、管理体制においても異なる点があり、目的や違いを正しく理解し、外注先を選択することが重要です。本資料では派遣と委託のキホンから選択のポイントまでわかりやすくお伝えします。

01



運用の全体像

人材派遣と業務委託のキホン

→ p.02へ

外注先の選択を行う前に、まずは人材派遣と業務委託のキホンを正しく理解しましょう。大まかには、人材確保が目的の「派遣」、業務依頼が目的の「委託」で区別できますが、本項ではメリット・デメリットを踏まえて、それぞれの運用形態についてお伝えします。

02



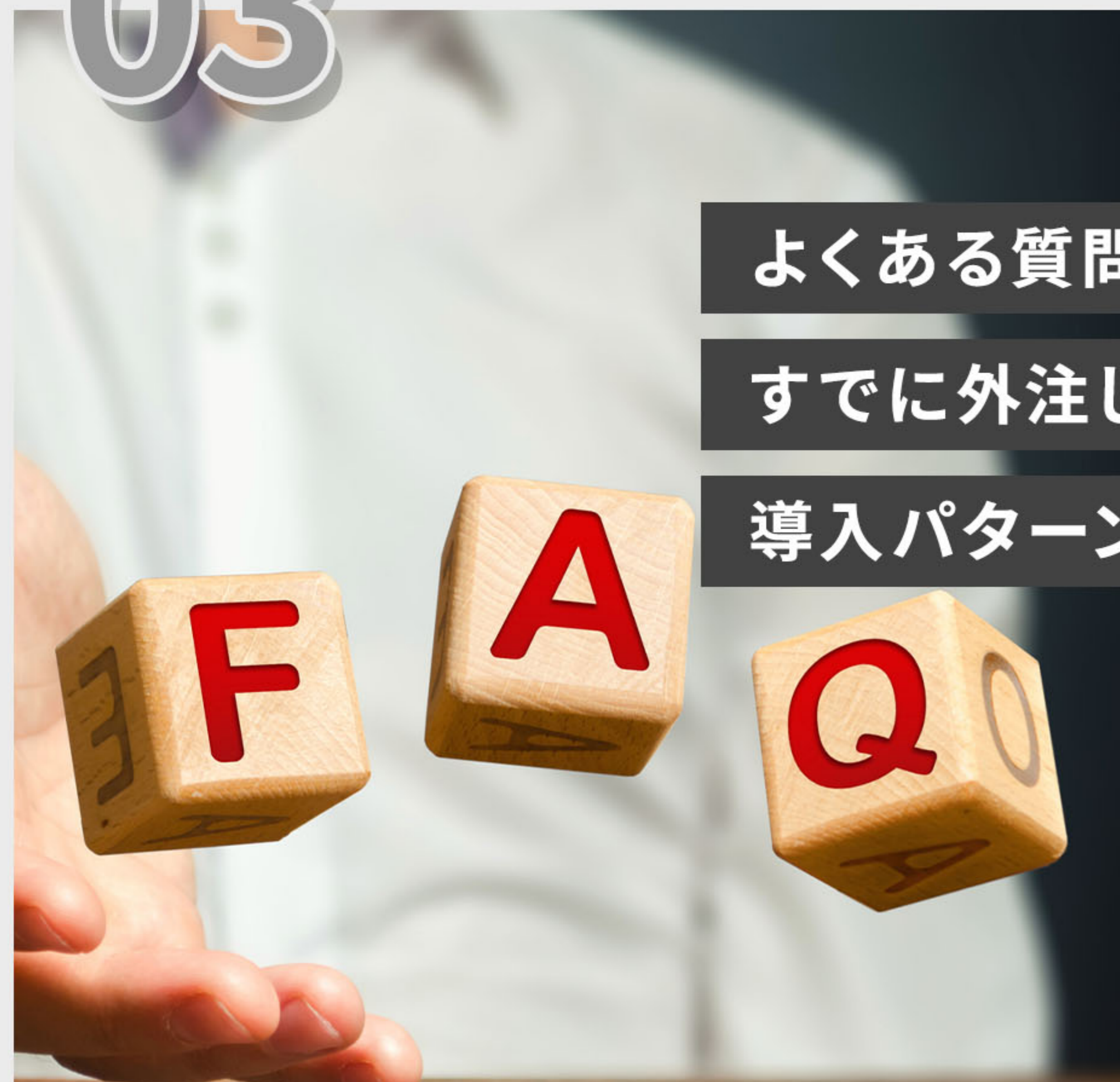
チェックリスト

派遣と委託、どちらに向いてるの？

→ p.03へ

社外の人を受け入れる、という点では同義の派遣と委託。しかし、それぞれの外注目的はまったく別物です。本項では、貴社における外注目的をチェックして頂き、各チェックポイントを解説。最適な外注先選択のお手伝いをします。

03



よくある質問・ケーススタディ

すでに外注しているけど切り替えメリットは？

導入パターン2例

→ p.04・p.05へ

本項では、派遣と委託に対する「よくある質問」へのアンサーと、「派遣と委託」の導入パターン事例をお伝えします。

04



特別なご案内

資料DL限定！個別相談会を開催

→ p.06へ

当ホワイトペーパーをダウンロードして頂いた方限定で、派遣・委託に関する個別相談会を開催します。

■ 運用の全体像 | 人材派遣と業務委託のキホン

外注先の選択を行う前に、まずは人材派遣と業務委託のキホンを正しく理解しましょう。大まかには、人材確保が目的の「派遣」、業務依頼が目的の「委託」で区別できますが、本項ではメリット・デメリットを踏まえて、それぞれの運用形態についてお伝えします。

直接運用管理



間接運用管理



自社人材の確保が目的

人材派遣会社から必要な人材を手配してもらう。
業務の進め方、契約管理、シフト管理は貴社にて運用管理。



派遣と委託

自社業務の依頼が目的

社内の業務を切り出し、自社業務のスリム化・適正配置をする。
業務の進め方、人員配置、教育は委託先にて運用管理。



メリット

- 01. 柔軟な業務対応ができる**
直接指揮命令が可能であり、突発的な業務に対応可
- 02. サービス開始期間が短期的**
スタッフ供給のみのため、依頼からサービス開始までが短く、すぐに業務サポートが可能

デメリット

- 01. 管理負担が大きい**
契約管理・教育・フォロー・シフト管理など、管理者負担が大
- 02. 受け入れ期間制限**
派遣法の改正により、派遣スタッフの稼働期間制限があるため、定期的な入れ替えに伴う、業務品質低下リスクが発生

メリット

- 01. 貴社管理業務負担が少ない**
契約管理・教育・フォローなど、業務運営における負担が軽減される
- 02. 業務標準化・継続担保**
業務検証・分析・整理などの可視化による業務標準化でスタッフが入れ替わっても一定の運用品質が担保される

デメリット

- 01. 派遣運用費よりコスト増**
管理費増に伴い、派遣費用比較すると費用が増える
- 02. 立ち上げ期間が必要**
運用独立性担保に伴い、一定の構築期間が必要

■ チェックリスト | 派遣と委託、どちらに向いているの？

社外の人を受け入れる、という点では同義の派遣と委託。しかし、それぞれの外注目的はまったく別物です。本項では、貴社における外注目的をチェックして頂き、各チェックポイントを解説。最適な外注先選択のお手伝いをします。



チェックリスト

派遣と委託、どちらに向いているの？

Q1.その業務は、現場社員が直接指示を出す必要がある業務ですか

はい いいえ

Q2.その業務は、一時的な増員が必要な業務ですか

はい いいえ

Q3.その業務は、繁忙差の激しい業務ですか

はい いいえ

Q4.その業務は、社内で設備用意が難しい業務ですか

はい いいえ

Q1とQ2のいずれかに「はい」がついたら

あなたの会社は「**派遣**」に向いています



現場社員が直接指示を出す必要がある業務に向いている理由

手順やルールが頻繁に変わる業務も柔軟に対応が可能のため
現場社員が直接指示を出すため、伝達漏れ等のミスも少ない



一時的な増員が必要な業務に向いている理由

繁忙期だけ、少人数でも対応できる業務だけなど
人員コントロールが容易なため

■ 具体的に向いている業務例

店舗での接客業務

秘書業務

Q3とQ4のいずれかに「はい」がついたら

あなたの会社は「**委託**」に向いています



繁忙差の激しい業務に向いている理由

繁忙期と閑散期の人員配置の調整を委託側で対応できるため
採用や教育にかかるコストも追加で発生しません



社内の設備用意が難しい業務に向いている理由

電話設備やPCの選定と導入、
執務スペースも含めて提供が可能のため

■ 具体的に向いている業務例

お問い合わせ対応業務

経理、法務などのバックオフィス業務

よくある質問 |

すでに外注しているけど切り替えメリットは？

本項では、派遣と委託に対する「よくある質問」へのアンサーと、「派遣と委託」の導入パターン事例をお伝えします。

契約の切り替え

Q. 派遣から委託への移行はできますか？



A. 可能です。

派遣から委託へ移行することにより、直接指揮命令ができない・立ち上げに時間を要する事態が発生するため、切り替えの際は現場の社員の方々に周知徹底が必要です。また、委託契約を結んだ労働者へ直接指揮命令を行うことは「偽装請負」にあたり違法なため特に注意が必要です。

立ち上がったあとは、派遣に比べて貴社管理業務負担が少なくなる・業務標準化で一定の業務品質が担保されるというメリットを受けることができます。



外注できない業務

Q. アウトソースできない業務は何ですか？



A. 弁護士・税理士・社会保険労務士などの
国家資格が必要な独占業務、債権管理回収業など
法律でアウトソースを禁じられている業務

言い換えれば、コールセンターやヘルプデスクなどの周辺業務はほとんどすべてが対応可能になります。

■ その他アウトソーシングに適していない業務と理由

- 判断業務** 貴社の経営に影響が出る恐れがあり、外注先ではその責任を負うことができないため
- 独占業務** 税務書類の作成など、特定の資格を有する者だけが従事できる業務のため
- 現金を扱う業務** 禁止はされていないが、紛失した際の補償リスクが高いため
- コア業務** アウトソーシングをすることで貴社の強みが損なわれる可能性があるため
- 1名体制の業務** 偽装請負になる可能性が高いため

■ ケーススタディ | 導入パターン2例

本項では、派遣と委託に対する「よくある質問」へのアンサーと、「派遣と委託」の導入パターン事例をお伝えします。

派遣導入パターン



急な欠員が発生し、
専門知識を持った人員補充が必要になった

課題

- ・直接雇用の場合、人材採用に一定の時間を要する
- ・業務委託の場合、業務を巻き取るために一定の時間を要する

解決策

人材派遣会社を利用することで解決

条件に見合った人材をスピーディーに確保できる
現場で直接指示ができるため引継ぎ期間が不要



委託導入パターン



派遣でコールセンターを運営しているが、
夜間の対応が必要になった

課題

- ・派遣のみで夜間対応の人員を補おうとすると業務委託よりもコストが高くなってしまう場合がある
- ・現場の責任者として結局社員もいないといけない

解決策

夜間のみ業務委託にすることで解消

時間を限定することでコストを最小限に
委託側で運用責任者を配置できるため社員不要に



個別相談会

派遣と委託の運用体制の違いがよく分からない

派遣と業務委託のどちらの運用体制が自社に合っているか分からない

当資料ではお答えできなかった

派遣・委託への疑問にお答えします

参加方法

1. 資料ダウンロード時にご入力頂いたメールアドレス宛に、個別相談会のご案内をお送りしております
2. 個別相談会をご希望される方は、ご希望のお日にちを複数候補ご記載の上、ご案内メールに返信してください
3. 日程調整ができ次第、担当よりご連絡をいたします

ご不明点・その他お問い合わせはこちら

パーソルワークスデザイン株式会社
お問い合わせ窓口
820454@persol.co.jp



PERSOL

パーソル ワークスデザイン

2021年8月発行
パーソルワークスデザイン株式会社
東京都豊島区池袋2-65-18 池袋WESTビル
<https://www.persol-wd.co.jp/>

© PERSOL WORKS DESIGN CO., LTD. All Rights Reserved.